【研究課題】
剖検例骨髄における血球貪食現象の法医病理学的応用に関する研究

研究期間：2014年4月1日～2020年3月31日

本研究では，亡くなった方の骨髄において、細胞の一種であるマクロファージの形や、血球貪食（マクロファージが赤血球や白血球をとりこみ、消化する現象）を調べ、亡くなった方の死因、あるいは背景にある全身状態との関係について、統計的な解析を行いました。その結果の概要を以下にお示しします。

・死後 2 日以内において，調査した範囲の骨髄に関する所見は、死後経過時間に影響されない
・腫大したマクロファージ・血球貪食を起こしたマクロファージ・鉄を含むマクロファージは、マクロファージの数に対する比をカウントすることで、マクロファージの活性化の指標として用いることができる
・炎症性病変をはじめ、死戦期が遷延する（比較的ゆっくりと死亡する）病態が死因になる症例では、マクロファージの腫大および血球貪食がみられる
・死戦期の遷延する病態があると、鉄を含むマクロファージの増加がみられる
・炎症の有無とマクロファージの形態変化には、直接の関連がみられない
・蘇生行為が行われた例では、マクロファージの数の増加がみられる
・マクロファージの血球貪食は、心停止後に心拍が再開した例で生じやすい